

北海道_小樽市



小樽運河100周年（大正12年12月完成）

地域概要

【地域計画の対象地域】

- 歴史・文化・街並み景観などが楽しめる中心部および四季の美しい景観や自然など地域資源を生かした朝里川温泉エリアを対象

【商工港湾都市 から 観光都市へ】

- 明治初期から北海道の玄関としての役割を担い、明治・大正・昭和初期を通じて港湾、鉄道など石炭輸送をはじめとした物流拠点、国内有数の商工港湾都市へ発展
- モータリゼーションの進展に伴い、海運機能を終えた小樽運河の埋め立て、道路建設計画の是非を巡り「運河論争」が起こり小樽の名は全国区へ
- 小樽運河の再開発以降、明治～昭和初期の面影を街並みに色濃く残し、海、港、山、坂、温泉、アクティビティ、食文化など、豊富な観光資源に恵まれ、国内有数の観光都市として成長

【「民の力」で創られ蘇った北の商都～二つの民の力～】

- 小樽独自の街並みは、明治以降、物産とともに各地から押し寄せてきた人々『民の力』によって創造
- 昭和後期、全国的に共感を呼んだ小樽運河保存運動『民の力』を契機に一大観光地へ成長

SWOT分析

強み

- 守り抜かれてきた遺産と繁栄の歴史・文化。明治期以降の歴史の面影と、海や山などの自然に恵まれた、文化・芸術が息づく街
- 札幌や新千歳空港などへの絶対的なアクセスの良さ、市内バス路線網の充実などのアドバンテージ
- 新鮮豊富な食（寿司、海鮮丼、にしん、しゃこ、うに、八角、ホタテ、あんかけ焼きそば、ばんじゅう、餅）と酒（日本酒、ワイン、ビール）
- 冬の魅力 ロウソクの灯りが街中を灯す「雪あかりの路」、幻想的な小樽運河を楽しめる「小樽・余市ゆき物語」
- 小樽観光の本質を捉えた人材の育成を目指す「小樽観光大学校（おたる案内人 マイスター・1級・2級）」の開設、観光事業者等のおもてなし力向上を目指す小樽独自のおもてなし認証制度構築の取組

弱み

日帰りの多い通過型観光地であり、観光客一人当りの消費額に伸び悩む

（理由）

- 札幌からの近さゆえ、小樽観光後札幌へ戻ってしまう場合が多い
- 飲食店や土産屋の閉店時間が早いなど、夜・早朝の観光がまだ弱い
- 訪問先が中心部エリアに偏っており、観光客は運河沿いのみ見て帰ってしまう場合が多い
- 宿泊施設（ハード面）が多様なニーズへ十分対応できておらず、宿泊を促せていない

機会

- 民間研究所が実施した地域ブランド調査2022で市町村「魅力度ランキング全国5位（9年連続5位以上）」、「観光意欲度（行ってみたい）ランキング4位」となり、知名度の高さやブランド力が全国的に浸透
- 高速道路の後志方面延伸、2030年度末の新幹線駅開業予定、小樽港再開発（第3号ふ頭及びその基部、クルーズの受入れ）
- （コロナ前）訪日外国人観光客の増加傾向や観光消費額の高さ、地方への高い関心
- 外国人から人気が高く、長期滞在が見込まれ、観光消費額も大きい特徴がある「アドベンチャーーツーム」の世界的な商談会（ATWS）が北海道で開催（2021年開催、2023年開催予定）

脅威

- 小樽の魅力構成する資源の縮小（歴史的建造物の老朽化・取壊し、経営者の高齢化等で市場や地元の名物店が閉店、職人や伝統芸能の継承者が減少 等）
- 若年層の人口流出、札幌市手稲区・西区への転出、合計特殊出生率、労働ミスマッチを背景とする労働力不足
- ロシアのウクライナ侵略などにより世界規模で不確実性が高まり、価格高騰による民間消費や企業活動など、経済への影響が懸念
- 新幹線開業、高速道路開通など交通体系再編後の小樽スルー

小樽観光エリア 地域計画（総括版）

ビジョン	繁栄の歴史・文化の物語がある街・小樽。100周年の小樽運河・石造倉庫群、唯一の温泉郷「朝里川温泉」で溢れる自然の体験を通し 「訪れる人が物語の主人公になれる観光都市」へ						
コンセプト	「小樽2.0」 = 2をテーマに、小樽観光をバージョンアップ	<ul style="list-style-type: none"> ● 2つのエリア ● 2度目の小樽 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2ターゲット（国内客と海外客） ● 2つの楽しみ ● 2つの力 				
ターゲット	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #008080; color: white; text-align: center; padding: 5px;">国内</td> <td> ・歴史・文化や街並み、情報発信に関心のある国内旅行者 ・健康意識が高く、日常からの解放や休養・リラックスを求める国内旅行者 </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #008080; color: white; text-align: center; padding: 5px;">海外</td> <td> ・街並み景観の鑑賞や御当地グルメなどの食体験に関心が高い中国、台湾、韓国、香港、タイ、マレーシア、シンガポールの個人旅行者・リピーター層 ・ウェルネスやアドベンチャーツーリズムに関心の高い欧米・オセアニア、国内ワーケーションなどステイ型滞在者 </td> </tr> </table>	国内	・歴史・文化や街並み、情報発信に関心のある国内旅行者 ・健康意識が高く、日常からの解放や休養・リラックスを求める国内旅行者	海外	・街並み景観の鑑賞や御当地グルメなどの食体験に関心が高い中国、台湾、韓国、香港、タイ、マレーシア、シンガポールの個人旅行者・リピーター層 ・ウェルネスやアドベンチャーツーリズムに関心の高い欧米・オセアニア、国内ワーケーションなどステイ型滞在者		
国内	・歴史・文化や街並み、情報発信に関心のある国内旅行者 ・健康意識が高く、日常からの解放や休養・リラックスを求める国内旅行者						
海外	・街並み景観の鑑賞や御当地グルメなどの食体験に関心が高い中国、台湾、韓国、香港、タイ、マレーシア、シンガポールの個人旅行者・リピーター層 ・ウェルネスやアドベンチャーツーリズムに関心の高い欧米・オセアニア、国内ワーケーションなどステイ型滞在者						

課題（現状とビジョンのギャップ）	課題解決に向けた具体的施策
<ul style="list-style-type: none"> ● 長くて1泊の短時間滞在が主流 ● 運河沿い等、観光客の訪問先に偏りがある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内に眠る古い家屋等の新しい観光資源を発掘 ● 自然を体験できる又は夜の小樽を満喫できる新しいプログラムを構築し、食以外の楽しみを発信
<ul style="list-style-type: none"> ● 宿泊施設の建物内外装の老朽化により景観を損ねている ● ラグジュアリー層や長期滞在、多様性への対応が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ● 宿泊施設の外観改修による景観改善を狙う ● 新規需要に合わせた内装の改修
<ul style="list-style-type: none"> ● 店舗の閉店時間が早く宿泊客が夕食を楽しむところがない ● 早朝の魅力が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ● 滞在者が手軽に小樽の食を満喫できるよう、宿泊施設の一部をテイクアウトや買い回りのできる施設に改修
<ul style="list-style-type: none"> ● 市内中心部と朝里川温泉エリアが観光地としての一体感がない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中心部と朝里川温泉エリアの交通アクセスを含む観光情報の充実 ● 中心部と朝里川温泉エリアの2つのエリアの特徴（歴史・自然・温泉）を融合し、魅力を向上

■ 全体概要

歴史的風致維持向上計画の策定を進め、歴史的なまち並みを生かすほか、第3号ふ頭及び周辺地域の再開発を進め、「みなとオアシス」として、にぎわいのある交流空間を創出するなどまちの価値を高め「選ばれるまち」を目指す。また昨年度事業により高付加価値化改修を行った施設を含め、ワインをキーコンテンツに「中心部～朝里川温泉エリア周遊ルート」の造成および海外（BtoB、BtoC）へ訴求する事業を展開し、エリア間の回遊性向上を目指す。

（街並み整備）小樽駅～小樽運河～堺町通りをコアエリアとして、宿泊施設（7件）、観光施設（5件）、公的施設（1件）を改修整備

（面的DX化計画）申請なし ※小樽市では、「本市観光課題」と「その課題解決が図られるデジタル技術」のマッチングを検討しており、

登録DMO・観光協会のほか、地元商店街、宿泊施設等も参画し、ITベンダーを含むデジタル技術の説明会等を開催

■ 主な取組

朝里川温泉ホテル（和室を和洋室へ改修 ほか）



改修前



改修後イメージ

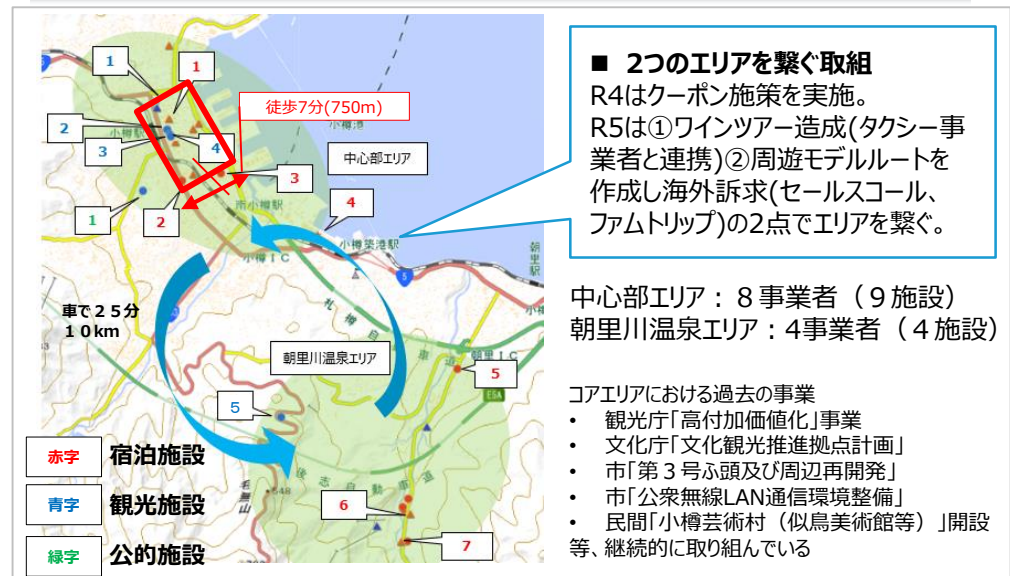
■ 合計：15事業

- 内訳 宿泊施設の高付加価値化：7事業
- 観光施設の改修：5事業
- 公的施設の民活導入：1事業
- 実証実験：2事業

■ 事業費額/補助見込額（申請ベース）

年度	事業費額	補助見込額
R5	4.40億円	2.31億円
R6	2.54億円	1.26億円
合計	6.94億円	3.57億円

■ エリアマップ（赤枠：コアエリア）



■ 街並み整備

- 街並み整備のコンセプト：文化や歴史、港湾都市としての魅力ある雰囲気などの財産が海・山・坂とともに変化に富んだ四季の移り変わりの中で形成された独自の都市景観（小樽の歴史と自然を生かしたまちづくり景観条例）
- 歴史まちづくり法に基づく「歴史的風致維持向上計画」策定の取組み

- コアエリアにおける外観改修数・廃屋撤去数
外観改修／事業者数：5/7
廃屋撤去：0/7

- 域計画全体の外観改修数・廃屋撤去数
外観改修／事業者数：10/12
廃屋撤去：0/12

小樽観光エリア 個別事業計画一覧

補助対象事業	#	事業者	施設/事業	事業費 (税別・百万円)		補助率	補助金申請額 (税別・百万円)		面的DX化 計画参加有無 (○または×)	コアエリア 対象範囲フラグ (○または×)	外観改修有無 (○または×)	大規模改修 フラグ (○または×)	経営 ガイドライン 登録/申請有無 (○または×)
				R5年	R6年		R5年	R6年					
1. 宿泊施設の高付加 価値化改修	1	(株)パーク・オタルチック ウ・オペレーションズ	グランドパーク小樽										
	2	(株)Sasson	朝里川温泉ホテル										
	3	(株)温泉宏楽園	おたる宏楽園										
	4	(株)ウインケル	貸別荘ウインケル										
	5	大秦合同会社	GUEST HOUSE ASAHI										
	6	大秦合同会社	OTARU GARDEN STAY										
	7	(株)小樽グリーンホテル	小樽グリーンホテル										
2. 観光施設の改修	1	平山三起子	裏小樽モンパルナス										
	2	小樽都通り商店街振 興組合	都通り商店街 アーケード										
	3	関努	アニメクス										
	4	北海道ワイン(株)	北海道ワイン醸造所										
	5	シーズ・アグリ(株)	シーズ・アグリ										
4. 公的施設の民間活 力導入	1	小樽市	小樽市公会堂										
5. 実証実験	1	小樽観光協会	実証実験										
	2	A N A あきんど	実証実験										
合計			事業数：15	440	254		231	126					

非公表

1. 地域特性分析

A. 地域概要・観光の動向

小樽市の概要

- 小樽市は、北海道西海岸のほぼ中央、後志地方の東側に位置し、札幌市など4市町村に隣接、東西約36km、南北約20kmで、市街地の一方が日本海に面し、他の三方を山々に囲まれた坂の多いまちとなっています。海岸線は約69kmで、その中央には天然の良港である小樽港があり、西側の勇壮な海岸は「ニセコ積丹小樽海岸国定公園」に指定されています。
- 気候は北海道にあって寒暖の差が小さい海洋性であり、住みやすく、春は桜と新緑、夏はゴルフやマリレジャー、秋は紅葉、冬はスキーと四季を通じて豊かな自然を満喫できる地域です。

エリアごとの特徴

小樽市特有の歴史・文化・街並み景観

中心部エリア

（小樽駅、小樽運河、堺町、築港周辺）

- 運河周辺には、明治・大正時代に建てられた石造り倉庫などの歴史的建造物が数多く存在し、異国情緒を感じる
- 「北のウォール街」と称される通りには、日本銀行旧小樽支店や旧北海道拓殖銀行小樽支店などの建物が今も残る



小樽運河（市内中心部）

四季の美しい景観や自然・アクティビティ

朝里川温泉エリア

- 市街地から車で約25分のところにあり、谷沿いの閑静な温泉郷。温泉はナトリウム・カルシウム塩化物を含みリュマチ、腰痛、神経痛などに効果がある
- 春は桜と新緑、夏はゴルフ、秋は紅葉、冬はスキーと四季を通じて自然を満喫できる



朝里ダム

【計画地域（エリア）】

小樽市 中心部および朝里川温泉エリア



1. 地域特性分析

A. 地域概要・観光の動向

小樽市の歴史

<湾港も鉄道も整備 物流の拠点へ>



<北日本随一の経済都市へ>



小樽運河誕生

1926年

1912年

1868年

1986年(小樽観光元年)

2023年(現在)

1945年

運河論争

<斜陽を経て観光都市へ転換>



<歴史文化を活かしたまちづくりへ>



【商工港湾都市から観光都市へ】

- 小樽は、明治初期から北海道の玄関としての役割を担い、明治・大正・昭和初期を通じて港湾、鉄道など石炭輸送をはじめとした北海道の物流拠点として、**国内有数の商工港湾都市**として発展、モータリゼーションの進展に伴い、市内交通渋滞緩和策として、海運機能を終えた小樽運河を埋め立て、道路を建設する計画の是非を巡り、「**運河論争**」が起こり、小樽の名は全国区に知られました。
- 小樽観光元年（1986年）と言われる小樽運河の再整備以降、明治～昭和初期の面影を街並みに色濃く残し、海、港、山、坂、温泉、アクティビティ、食文化など、豊富な観光資源に恵まれた小樽は、**国内有数の観光都市**として成長しました。

【2つの「民の力」によって創られた街】

- 市街地の背後に位置する天狗山から街を展望すると小樽港とその周辺に広がる市街地全体を見渡すことができ、小樽で青春時代を過ごした小林多喜二は「街並みが山腹に階段形に這い上がった港街で、広大な北海道の奥地から集まってきた物産がそこから又内地へ出て行く謂わば『心臓』みたいな都会である」と表現しましたが、小樽独自の街並みは、**明治以降、物産とともに各地から押し寄せてきた人々の「（1つ目の）民の力」**によって創られ、そして**昭和後期、全国的に共感を呼んだ「（2つ目の）民の力」**による**小樽運河保存運動**を契機に小樽は一大観光地として生まれ変わりました。

1. 地域特性分析

A. 地域概要・観光の動向

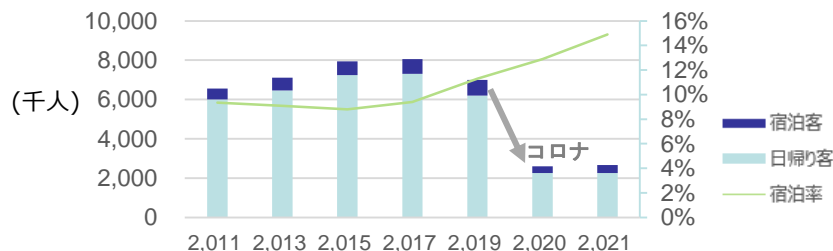
観光客数動向

＜観光入込客数＞

- 年間最大800万人が訪れる道内屈指の観光地(2019年道内2位)
- 2017年には最大約800万人の観光客が来訪

＜宿泊率＞

- コロナ以前の宿泊率は10%程度と低く、宿泊率の増加が課題である(2019年道内7位)



道内市町村観光客数順位(2019)

順位	市町村	入込客数
1	札幌市	1,526万人
2	小樽市	699万人
3	函館市	537万人
4	釧路市	531万人
5	旭川市	508万人
6	千歳市	454万人
7	登別市	324万人

道内市町村宿泊延べ客数順位(2019)

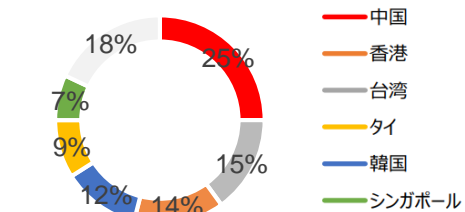
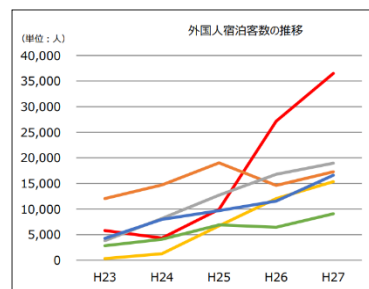
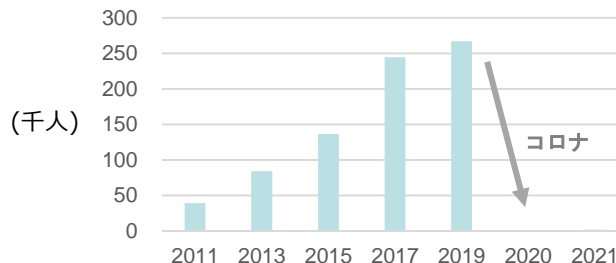
順位	市町村	宿泊延べ客数
1	札幌市	1,398万人泊
2	函館市	382万人泊
3	釧路市	148万人泊
4	帯広市	119万人泊
5	倶知安町	114万人泊
6	登別市	107万人泊
7	小樽市	94万人泊

データ出典：小樽市観光客動態調査報告書(令和2年3月)

年間800万人が来訪する巨大観光都市だが、宿泊率が低く通過型観光地となっている

インバウンド客数動向

- 外国人観光客数は2011年から2019年で約6倍に推移
- コロナ以前、中国、台湾、タイ、香港、シンガポール、韓国からの来訪が多い(中国客は7年で10倍に増加)
- 2022年は韓国、台湾、香港、タイ、シンガポールからの来訪が回復(中国からの回復や欧米豪の増加が期待)



データ出典：小樽市観光客動態調査報告書(令和2年3月)

コロナ以前、アジアを中心にインバウンド客数は驚異的に増加

1. 地域特性分析

A. 地域概要・観光の動向

知名度・ブランド

観光消費額

9年連続

全国地域ブランドランキング5位以上

株式会社「ブランド総合研究所」調査(2022)

順位	市町村
1位	札幌市
2位	京都市
3位	函館市
4位	横浜市
5位	小樽市
6位	神戸市
7位	鎌倉市
8位	金沢市
9位	那覇市
10位	石垣市
11位	富良野市
12位	軽井沢市

※1000の市区町村(全792市+東京23区+185)と全国47都道府県を対象に、認知度・魅力度・イメージなどインターネット調査を行った。

近いブランド力を持つ札幌・函館よりも一人あたりの消費額が少ない

市町村 (調査年)	観光客数(万人)(①)			消費額(円)/人(②)		出典
	日帰客	宿泊客	合計	日帰客	宿泊客	
札幌市 (2019)	662.4	864.0	1,526.4	14,405*	39,346*	「札幌の観光」 札幌市経済観光局 (令和2年10月)
函館市 (2019)	227.1	309.8	536.9	16,233	49,727	「来函観光入込客数」 函館市観光部観光振興課(令和2年5月)
小樽市 (2018)	701.3	80.1	781.4	8,643	38,211	「小樽市観光客動態調査報告書」 小樽市産業港湾部観光振興室 (令和2年3月)
富良野市 (2018)	143.9	46.1	190.0	8,028	36,777	「富良野市観光経済調査報告書」 富良野市 (平成30年)

データ出典：小樽市観光客動態調査報告書(令和2年3月)
*札幌市の消費額/人は「北海道の観光統計データ」(観光振興機構)より引用

同程度のブランド力の観光地と比して、一人当たりの消費額が少ないことが課題

1. 地域特性分析

A. 地域概要・観光の動向

エリア間の周遊状況



中心部エリア

朝里川温泉エリア

道内外・外国人別周遊観光ゾーンの内訳＜複数回答＞

	平成30年度							
	道内客		道外客		外国人		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
祝津・オタモイ	554	37.6%	414	14.8%	304	36.7%	1,242	24.9%
小樽駅周辺	681	46.3%	1,596	57.0%	695	83.9%	2,972	58.3%
運河周辺	945	64.2%	2,394	85.5%	787	95.0%	4,126	80.9%
堺町周辺	454	9.6%	1,019	36.4%	431	52.1%	1,904	37.3%
築港周辺	142	9.6%	185	6.6%	308	37.2%	635	12.4%
天狗山周辺	223	15.1%	348	12.4%	236	28.5%	807	15.8%
朝里川温泉周辺	142	9.6%	113	4.0%	181	21.9%	436	8.5%
合計	3,141		6,089		2,942		12,152	
回答者数	1,472		2,801		828		5,101	
周遊率	2.1	2.2			3.6		2.4	

データ出典：小樽市観光客動態調査報告書(令和2年3月)

中心部エリアの周遊割合が圧倒的に高く、朝里川温泉エリアへの周遊は特に少ない。観光客属性別で見ると、外国人観光客は周遊率が比較的高く、国内客は低い傾向にある

1. 地域特性分析

B. 地域の強み

／ 守り抜かれてきた遺産と繁栄の歴史・文化×山や温泉など豊かな自然 ／

① 守り抜かれてきた遺産と繁栄の歴史・文化

- 昭和30年代後半の急速な経済の衰退により高度経済成長の波に乗り遅れた小樽は、結果的に取り残された歴史的資源を武器に観光都市として生まれ変わった。代表的な資源としては、小樽運河、色内銀行街などの歴史的建造物、旧手宮鉄道施設・手宮線跡など、明治、大正、昭和初期の歴史的資源が残っている。
- 明治13（1880）年、日本で3番目、北海道で最初の鉄道が小樽と札幌の間に開通。北海道鉄道発祥の地として、小樽市総合博物館では、【国指定重要文化財】旧手宮鉄道施設の機関車庫、転車台、よう壁など、蒸気機関車が主流であった時代の鉄道システムを見ることができる。



小樽運河



小樽オルゴール堂



旧三井銀行小樽支店



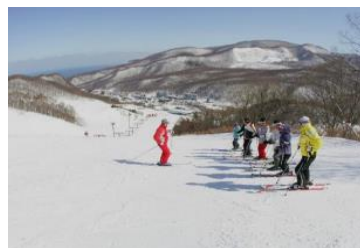
旧国鉄手宮線跡地



旧日本郵船(株)小樽支店

② 札幌にはない海、中心部から近い山や温泉など豊かな自然

- 市街地から車で25分の距離には谷治いの閑静な朝里川温泉郷が広がり、スキー、リバーウォーク、湖畔園地での散歩など、四季を通じて自然を満喫できる。
- 温泉郷の奥には、ループ橋や朝里ダムなどがあり、「オタルナイ湖」と呼ばれるダム湖の周辺には湖畔園地も整備されており、散歩しながら湖を眺めることができる。西側に位置する望洋台には、サッカー・ラグビー場がある。
- その他、市内には、祝津、赤岩、天狗山などの自然の魅力がある。天狗山は、港の見えるスキー場として海を眺めながら滑走することができる。天狗山山頂まではロープウェイが運行されており、重要な眺望地点として大パノラマを楽しむことができる。



朝里川温泉スキー場



朝里川温泉



朝里ダム



TENGUUテラス（天狗山山頂）

1. 地域特性分析

B. 地域の強み

③札幌市、新千歳空港からの立地・アクセスのアドバンテージ

- 200万人都市の札幌から近く、気軽に来訪可能
 - ① JR 快速 約35分 普通 約50分
 - ② 高速利用 札幌道札幌北IC経由で約50分（約37km）
 - ③ 高速バス 円山経由・北大経由で約60分
 - ④ 一般道利用 国道5号経由で約70分（約36km）
- 新千歳空港からJR快速で75分と、道外客も足を運びやすい



⑤冬の魅力

- 冬の魅力として特筆すべき雪が彩る歴史的な街並み
- 小樽のシンボルとも言える「小樽運河」に「雪」と「あかり」を使用し、冬ならではの幻想的な景観を創出
- 11月から2月まで、「小樽・余市ゆき物語」というロングランでイルミネーションを装飾を実施



④新鮮豊富な食と酒

- 食(寿司・海鮮丼・にしん・しゃこ・うに・八角・ホタテ・スイーツ・かまぼこ・ホルモン焼き・メのスープ・若鳥の半身揚げ・あんかけ焼きそば・ぱんじゅう・だんご・餅文化)
- 酒（日本酒・ワイン・ビール）
- 食べ歩きが可能



⑥おもてなしの取組

- 観光客へ傘の無料貸し出し、観光施設のバリアフリー化
- 宿泊施設の語学・食文化への勉強会
- 韓国台湾からのボランティア（雪あかりの路）
- ライトアップ時間帯の観光案内のボランティア
- 小樽観光大学校（おたる案内人 マイスター、1級、2級）
- 小樽独自のおもてなし認証制度の構築を目指した取組



C. 地域の弱み

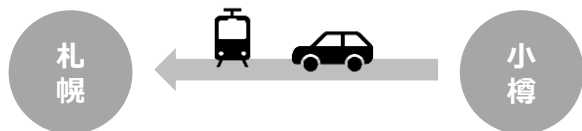
日帰りの多い通過型観光地であり、観光客一人当りの消費額に伸び悩む

日帰り客の平均滞在時間は5.3時間

Why ?

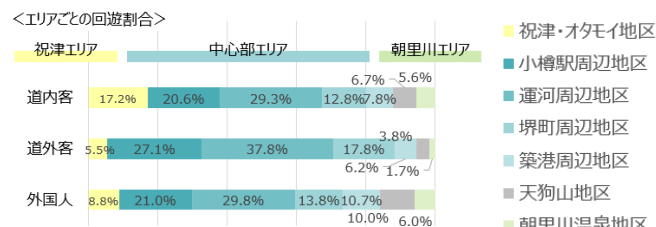
① 札幌からの近さゆえ、小樽観光後札幌へ戻ってしまう場合が多い

- 前頁記載のように、大都市札幌までの近さゆえ、夜に札幌へ戻ってしまう観光客が多く、小樽市内での宿泊に至らない



③ 訪問先の偏り(運河沿いのみ見て、帰ってしまう)

- 観光客の多くが徒歩圏内の中心部エリアの回遊に留まっており、滞在時間が短い



データ出典：小樽市観光客動態調査報告書(令和2年3月)

② 夜・早朝の観光の弱さ

- 上記①に加え、小樽市自体の夜・早朝の観光も弱く(土産店・飲食店の閉店時刻が早い、朝の魅力のPR不足)、観光客を宿泊・長期滞在させることができていない
- 宿泊客のうち14%は「夜の観光はしない」と回答

	道内客	道外客	外国人	合計	割合
街なか散策	96	359	152	607	20.7%
運河散策	147	551	233	931	31.7%
夜景観賞	51	132	73	256	8.7%
飲食店・居酒屋など	138	437	119	694	23.6%
その他	6	20	6	32	1.0%
夜の観光はしない	146	212	53	411	14.0%
合計	584	1,711	636	2,931	100%
回答者数	414	1,058	391	1,863	-

データ出典：小樽市観光客動態調査報告書(令和2年3月)

④ 宿泊施設(ハード面)が多様なニーズへ十分対応できておらず、宿泊を促せていない

- 宿泊施設の数自体は増加傾向にあるが、ラグジュアリー、長期滞在等のニーズへの対応が十分でない

1. 地域特性分析

D. SWOT分析

【 強み Strength 】

- 守り抜かれてきた遺産と繁栄の歴史・文化。明治期以降の歴史の面影と、海や山などの自然に恵まれた、文化・芸術が息づく街
- 札幌や新千歳空港などへの絶対的なアクセスの良さ、市内バス路線網の充実などのアドバンテージ
- 新鮮豊富な食（寿司、海鮮丼、にしん、しゃこ、うに、八角、ホタテ、あんかけ焼きそば、ばんじゅう、餅）と酒（日本酒、ワイン、ビール）
- 冬の魅力 ロウソクの灯りが街中を灯す「雪あかりの路」、幻想的な小樽運河を楽しめる「小樽・余市ゆき物語」
- 小樽観光の本質を捉えた人材の育成を目指す「小樽観光大学校（おたる案内人 マイスター・1級・2級）」の開設、観光事業者等のおもてなし力向上を目指す小樽独自のおもてなし認証制度構築の取組

【 機会 Opportunity 】

- 民間研究所が実施した地域ブランド調査2022で市町村「魅力度ランキング全国5位（9年連続5位以上）」、「観光意欲度（行ってみたい）ランキング4位」となり、知名度の高さやブランド力が全国的に浸透。
- 高速道路の後志方面延伸、2030年度末の新幹線駅開業予定、小樽港再開発（第3号ふ頭及びその基部、クルーズの受入れ）
- （コロナ前）訪日外国人観光客の増加傾向や観光消費額の高さ、地方への高い関心
- 外国人から人気が高く、長期滞在が見込まれ、観光消費額も大きい特徴がある「アドベンチャーツーリズム」の世界的な商談会（ATWS）が北海道で開催（2021年開催、2023年開催予定）

【 弱み Weakness 】

日帰りの多い通過型観光地であり、 観光客一人当りの消費額に伸び悩む

（理由）

- 札幌からの近さゆえ、小樽観光後札幌へ戻ってしまう場合が多い
- 飲食店や土産屋の閉店時間が早いなど、夜・早朝の観光がまだ弱い
- 訪問先が中心部エリアに偏っており、観光客は運河沿いのみ見て帰ってしまう場合が多い
- 宿泊施設（ハード面）が多様なニーズへ十分対応できておらず、宿泊を促せていない

【 脅威 Threat 】

- 小樽の魅力構成する資源の縮小（歴史的建造物の老朽化・取壊し、経営者の高齢化等で市場や地元の名物店が閉店、職人や伝統芸能の継承者が減少等）
- 若年層の人口流出、札幌市手稲区・西区への転出、合計特殊出生率、労働ミスマッチを背景とする労働力不足
- ロシアのウクライナ侵略などにより世界規模で不確実性が高まり、価格高騰による民間消費や企業活動など、経済への影響が懸念
- 新幹線開業、高速道路開通など交通体系再編後の小樽スルー

「小樽ならではの」の観光体験を提供し、「滞在型」の観光地へ

2. 地域計画

A. ビジョン・コンセプト

ビジョン

繁栄の歴史・文化の物語がある街・小樽
 100周年の小樽運河・石造倉庫群、朝里川温泉に溢れる自然体験を通し
「訪れる人が物語の主人公になれる観光都市」へ

1

当該地域には、明治、大正、昭和初期の歴史的建造物が残り、小樽運河沿いには令和4年に石造倉庫を活用した西洋美術館が新たに開業するなど、**新たな「民の力」により、観光地として更なる再生、高付加価値化が図られています。**
 谷沿いの閑静な温泉郷や四季を通じた自然が満喫でき、食べ物が美味しく、歴史的建造物があり、しかもそれらを再生して、「まちづくり」「観光」に活かしている小樽は、景観や食に加え、贅沢な時間を求め、2025年度には、コロナ前よりも更に多くの観光客が訪れる街になっています。

2

小樽は歴史的に「**民の力**」が先導してつられてきた街であり、小樽運河保存運動や小樽雪あかりの路など、**市民活動が盛んな街。**
 2025年度には、市民や地元事業者がこの街を一層誇りに思い、明治・大正・昭和初期の街並み保全や観光資源を磨き上げ、地域の歴史・文化を知る契機となるイベントを開催するなど、**地域が主体となった活動が更に活性化**しています。

3

小樽独自の歴史や文化に裏打ちされた魅力に加え、ワーケーションやスポーツ滞在、リバーウォークなどのアドベンチャー・アクティビティを求め、2025年度には、**海外のFIT（中国、韓国、香港、台湾 など）をはじめ国内外から多くの観光客が訪れています。**

4

観光二毛作（昼だけじゃない夜も朝も）、二拠点回遊（歴史浪漫も自然も両方満喫）、二度目の小樽（日帰り客を宿泊客に）により、2025年度には、**稼げる・持続可能な観光地経営を実践する街**になっています。



A. ビジョン・コンセプト

コンセプト

「2」をテーマに、小樽観光をバージョンアップ

小樽2.0

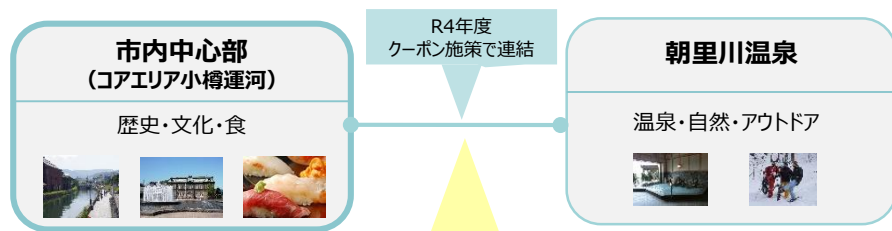
＝本コンセプトは、地域事業者が小樽観光の未来を考える“思考の起動スイッチ”に＝

令和4年度に本コンセプトを設定し、浸透したことから継続使用します。

「小樽2.0」というシンプルなコンセプトワードであることから、**地域事業者が各々の解釈で2.0（小樽観光バージョンアップ）を考えるきっかけのワード**になりました。本事業が契機となり、**これからも**「これをやってみたい」「あれもトライしてみたい」「こういう2.0があるのではないかな」など、観光事業者の**前向きなアイデアが出てくることに期待**を込めています。

■ 2つのエリア ～ 中心部と朝里川温泉をつなぐ

歴史浪漫的集客力ある「中心部」と温泉や自然の「朝里川」をつなぎ、面的な魅力をたかめ、回遊性/滞在時間向上へ。



■ 2度目の小樽

日帰りの次は、宿泊で。
宿泊につながる様々な施策を展開。

※アドベンチャーツーリズムの旅行商品など体験型商品の造成等（2023）

■ 2つの楽しみ

昼だけじゃない
「夜」も「朝」も楽しめる観光地に。

※小樽観光協会による
ナイトインフォメーション（夜の観光案内所）設置 2023.5月
※小樽運河100周年記念イベント 2023.9～12月

■ 2ターゲット（国内と海外）

国内富裕層とインバウンド本格再開に向け、外国人誘致・満足度を強化。

※市、観光協会、商工会議所等で構成する実行委員会で
シンガポールヘセールススクール等実施（2023）

■ 2つの力（民と官）

民の力が主導してきた街・小樽。
民と官が協力し小樽観光を活性化。

※協会の登録DMO完了（2022）
※旧追貝戦果第3倉庫の活用（2021～）

その他、地域事業者が各々の解釈で小樽2.0（観光バージョンアップ）を進める。

2. 地域計画

B. ターゲット

「小樽2.0」に基づき、国内客と海外客 2 ターゲットに、それぞれ 2 つ、ペルソナと提供する観光体験を設定

国内客

歴史・文化や街並み、情報発信に関心のある国内旅行者に、
歴史的な街並みや日本遺産ストーリーを含む地域文化を楽しんでもらう

健康意識が高く、日常からの解放や休養・リラックスを求める国内旅行者へ、
地域の自然・文化を、アクティビティを通じて体験してもらうことで、
長期滞在し、地域ならではの食事や地場製品の購入、温泉などを楽しんでもらう

海外客

街並み景観の鑑賞や御当地グルメなどの食体験に関心が高い
中国、台湾、韓国、香港、タイ、マレーシア、シンガポールの個人旅行者・リピーター層へ、
歴史的な街並みや食文化、アクティビティを体験してもらうとともに、高級感のある宿泊施設で長期滞在してもらう

ウェルネスやアドベンチャーツーリズムに関心の高い欧米・オセアニア、国内ワーケーションなどステイ型滞在者へ、
広めで高級感のある宿泊施設や心と体の健康と癒しをもたらす温泉を楽しんでもらい、長期滞在してもらう

2. 地域計画

C. 課題・具体的施策

課題

小樽運河周辺など一部の観光スポットのみを観光し他を周遊せず訪問先に偏りがある。

小樽市内の中心部と朝里川温泉は公共交通機関で周遊可能なエリアではあるが、現状観光客の約8割が中心部のみの滞在となっている。

解決方向性

小樽市内に眠っている観光資源を認識し、掘り起こし、磨き上げ、国内外に訴求する。
小樽を実感できる魅力ある体験プログラムや宿泊につながる夜の小樽を満喫できる街歩きプログラムを構築し提供する。

小樽市内中心部（明治以降の歴史の面影を色濃く残す街並み）と朝里川温泉（自然）の**行き来や交通アクセスを含む観光情報の充実**により、それぞれが補完し合うことで、地域の更なる魅力向上を目指す。

具体的施策

- 観光施設の改修
- **公的施設（小樽市公会堂）の観光目的での利活用**のための民間活力の導入
- 祝津、赤岩などの遊歩道の整備やPR
- 群来太郎丼（ニシン）やおタテ（ホタテ）など新たな食の魅力の発掘
- 地元の日本酒、ワイン、ビールなどの情報発信
- **日本遺産認定ストーリーとの連携**

- 中心部エリア⇔朝里川エリアをつなぐ周遊促進クーポン(R4年実施)
- 中心部と朝里川温泉エリアの**回遊性向上に寄与する北海道ワイン醸造所の施設改修**（小樽湾・石狩湾を一望できるワイン体験、市内宿泊施設・タクシー連携）
- 中心部と朝里川温泉エリア**周遊モデルルートを作成し海外へ訴求**（セールスコール、ファミトリップ）

2. 地域計画

C. 課題・具体的施策

課題

店舗の閉店時間が早く宿泊客が夕食後に楽しむところが少ない、早朝に楽しむコンテンツがないなど、**夜や朝の魅力が十分とは言えない。**

解決方向性

昼は、団体や海外客、日帰り客を対象にこれまでのコンテンツを活用するとともに、コンセプトに基づき、夜と早朝に新たなコンテンツを盛り込み、高価格帯の需要を獲得する。

具体的施策

- S63から小樽運河倉庫群など**歴史的建造物をライトアップ**、R4年から旧北海製罐第3倉庫実施
- 市内ボランティア団体がガイドを務める「**小樽ライトアップ散策ガイドツアー**」実施
- 夜の小樽情報パンフレット「**おたるナイトマップ**」やウェブサイト「**ON Otaru Night**」による情報発信
- 市内に宿泊する観光客を中心に夜の飲食店の案内等を行う「**ナイトインフォメーション**」の開設（R5.5月）
- 運河竣工100年記念ロングランイベント（**ナイトマーケット、はしご酒等**）
- 宿泊事業者による**朝ツアー造成**

宿泊施設の供給体制は量的に増加傾向にあるが、建物内外装の老朽化や旧基準によるフロア・部屋など、**ラグジュアリー層や長期滞在、多様性への対応が十分とは言えない。**

コンセプトに基づき、宿泊施設の**外観、内観を改修**することで宿泊単価を向上する。

- 宿泊施設の高付加価値化改修（R4年度）
オーセントホテル小樽
運河の宿ふる川
合同会社PoRtaru
朝里クラッセホテル 等
- （R5、6年度）
グランドパーク小樽
おたる宏楽園
朝里川温泉ホテル 等

2. 地域計画

D. 施策詳細

<凡例>
 赤色：本事業の対象
 青色：本事業以外

ハード事業

宿泊施設

ラグジュアリー層や長期滞在、多様性への対応



グランドパーク小樽

6階遊休施設の改修 エントランスの改修



朝里川温泉ホテル

和室を和洋室タイプへ 庭園のウッドデッキ改修



おたる宏楽園

既存岩盤浴をフィンランドサウナに改修 庭園改修

観光施設

短時間滞在、運河沿い等への偏りへの対応



都通り商店街

雨天・降雪時にも歩いて楽しむ歩行空間を創出



裏小樽モンパルナス

小樽の歴史や庶民的な雰囲気の色濃く残しながら、飲食店へ改修



北海道ワイン醸造所

ワイン醸造所のウェルカムサイン等改修



旧日本郵船小樽支店

国指定重要文化財の保全、活用



TENGUUテラス

小樽市内を一望できるビュースポットの新設



朝里川温泉地区

朝里川温泉地区における拠点（休憩所）整備

公的施設

観光資源の掘起し・磨上げ・国内外に訴求



小樽市公会堂(能楽堂)

観光資源として磨上げ・二コクベニューとして活用



北海製罐小樽工場第3倉庫

北運河における新たな夜の魅力創出



第3号ふ頭、国際イノベーションセンター

みなとオアシスとして賑わいのある交流空間を創出

駐車場

観光客の周遊促進のため、駐車場を整備



堺町駐車場

運河周辺を訪れる観光バス駐車場の整備

2. 地域計画

D. 施策詳細

<凡例>

赤色：本事業の対象

青色：本事業以外

ソフト事業

観光コンテンツ・イベント

アドベンチャーリズム、着地型観光等



アドベンチャーリズム

朝里川温泉のほか、祝津、赤岩などの魅力も活用



運河100周年プロジェクト

若者の方で地元小樽を盛り上げる！ ナイトタイムコマー



小樽雪あかりの路

冬の閑散期対策 ロウソクの灯りが街を照らす



ロマンスビルミネーション

歴史的建造物のライトアップ。夏にはボランティアガイドツアーも



おタテのブランド化

小樽祝津産ホタテのブランド化プロジェクト



ワインカーニバル

ワインや食を楽しめる秋の収穫祭



観光客動態等分析

観光客動態、小樽に対する意向、消費金額の変化



DX推進による地域課題解決の検討

本市の課題とデジタル技術のマッチングが重要

現状分析・DX検討

観光客動態、消費動向など既存顧客の可視化、経済効果分析、観光DXの検討

観光DXに係る検討状況

(1)目的

『本市の観光の課題』と『その課題解決が図られるデジタルツール』の組合せ等の検討

(2)主なデジタル技術

- ・人口分布統計、人口流動統計
- ・位置データ、流動人口データ、位置情報調査
- ・統合PMS、顔認証技術、AIコンサルティング
- ・SNS分析、デジタルマップ

(3)主な参加者

観光協会、商店街、宿泊施設、観光施設、製造業者、旅行代理店、広告代理店、コンサルティング など

(4)主な検討内容

- ①地域課題の共有
- ②課題解決に資するデジタル技術の説明
 - ア) 旅行者の利便性向上・周遊促進（観光アプリ、Maasなど）
 - イ) 観光産業の生産性向上（PMS、APIなど）
 - ウ) 観光地経営の高度化（人流分散、DMP など）
- ③観光入込、観光動態、観光戦略への活用
- ④地元事業者（商店街、宿泊施設、観光施設、飲食店等）による活用
- ⑤運営主体（DMO、市、その他）、DX人材確保
- ⑥初期投資費用（補助金等）、運営費用（費用負担、財源確保等）

2. 地域計画

E. 地域回遊時のカスタマーエクスペリエンス（顧客へ提供する体験）



■ 小樽市中心部で市民生活に触れる

商店街や夜の小樽を通じて、小樽市民の生活に触れる。日中は小樽市民の生活を見守ってきた各商店街の散策、夜はナイトインフォメーションを活用し、小樽市民が集う飲食店での食事や飲酒を楽しみ、より市民の生活に触れられる体験を提供。

カスタマーエクスペリエンス（顧客へ提供する体験/1泊2日）

<1日目>

15:00 チェックイン



16:00 小樽運河、堺町通り商店街を散策



17:00 運河クルーズに乗船



18:30 ナイトインフォメーション
ディープな花街体験



22:00 ホテルへ戻る

<2日目>

8:00 鱈友朝市で朝食



9:00 商店街を散策



10:00 小樽市総合博物館運河館



11:00 観光船でオタモイを海から巡る



帰宅

2. 地域計画

E. 地域回遊時のカスタマーエクスペリエンス（顧客へ提供する体験）



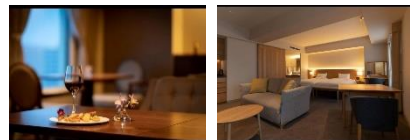
■ラグジュアリー層やインバウンドがゆっくりと自然を楽しむ

小樽天狗山山頂にて夕景から夜景になる間のマジックアワーやミシュラングリーンガイドジャパンにてひとつ星の評価を受けた山頂からの夜景などを通じ、小樽の自然や街並みをゆっくり堪能。また、和装体験や人力車、屋形船乗船など、小樽の歴史・文化に触れる体験を提供。

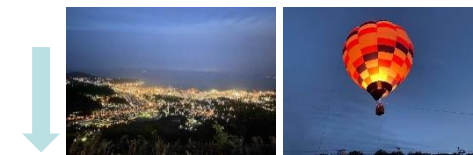
カスタマーエクスペリエンス（顧客へ提供する体験/1泊2日）

<1日目>

15:00 チェックイン



17:00 天狗山で周辺散策と夜景観賞



20:00 ホテルでディナーやバーを堪能



<2日目>

8:00 ホテルで朝食



9:00 和装体験



10:00 人力車で街並み散策



12:00 屋形船を貸切り（ランチ）



帰宅

2. 地域計画

E. 地域回遊時のカスタマーエクスペリエンス（顧客へ提供する体験）



■ 小樽の自然を満喫するコース（祝津～朝里川温泉）

祝津地区で、練御殿や小樽海岸自然探勝路など周辺散策、祝津地区から観光船にて海上から小樽を眺め、中心部へ移動し、朝里川温泉地区で過ごすなど、小樽の中心部を經由し、祝津地区及び朝里川温泉地区の自然・歴史・文化・街並みを回遊しながら楽しめる体験を提供。

カスタマーエクスペリエンス（顧客へ提供する体験/1泊2日）

<1日目>（祝津エリア）

15:00 チェックイン



16:00 周辺散策



18:00 祝津パノラマ展望台で夕日を眺める



18:30~20:30 レストランでディナー



<2日目>

10:00 観光船で移動



11:00 手宮線跡地を散策



（朝里川温泉エリア）

12:00 北海道ワインでランチ



13:00 朝里川温泉で日帰り入浴



帰宅

2. 地域計画

E. 地域回遊時のカスタマーエクスペリエンス（顧客へ提供する体験）



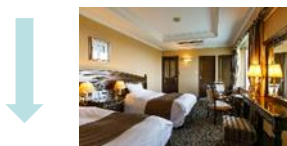
■ 冬ならではの楽しみ（1月～2月上旬）

スキー体験やスノーシューツアーなどのアクティビティを通じて、冬の小樽の自然体験、かまくらジンギスカンにて日常にはない特別な体験を提供。また、季節限定のイベント「青の運河」や「ワイングラスタワー」、「小樽雪あかりの路」などを通じて、通常では体験できない幻想的な小樽の街並み散策の体験を提供。

カスタマーエクスペリエンス（顧客へ提供する体験/1泊2日）

<1日目>

15:00 チェックイン



16:00 スキー場（ナイター）



21:00 温泉入浴



<2日目>

10:00 スノーシューツアー



13:00 かまくらジンギスカン



17:00 青の運河、ワイングラスタワー、小樽雪あかりの路など季節限定のライトアップを見学



帰宅

2. 地域計画

E. 地域回遊時のカスタマーエクスペリエンス（顧客へ提供する体験）



■ 祝津エリア堪能コース

日本では珍しい断崖絶壁の上にある国立公園内の自然探勝路のうち祝津～赤岩の散策、海を仕切っただけの海獣プールが珍しいおたる水族館での自然体験や鯨御殿、旧青山別邸の見学などを通じ、鯨漁で栄えた歴史や文化など祝津地域をゆっくり堪能できる体験を提供。

カスタマーエクスペリエンス（顧客へ提供する体験/1泊2日）

<1日目>（祝津エリア）

15:00 チェックイン



16:00 自然探勝路を散策



<2日目>

9:00 おたる水族館



12:30 青塚食堂でランチ



14:00 小樽市鯨御殿&旧青山別邸見学



16:30 手宮洞窟保存館見学



17:00 チェックイン、隠れた名店を堪能



<3日目>

7:00 鱗友朝市で朝食



帰宅

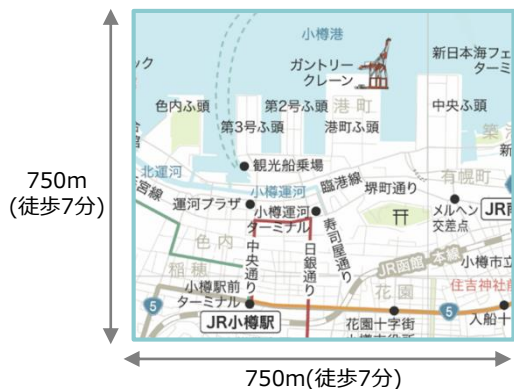
2. 地域計画

E. 地域回遊時のカスタマーエクスペリエンス（コアエリア形成の取組）

コアエリアの概要

小樽運河周辺エリア

■ エリアの特徴



- 小樽市指定歴史的建造物として、倉庫14件、銀行10件、文化財3件などがあり、旧日本郵船(株)小樽支店、旧手宮鉄道施設、旧三井銀行小樽支店は国指定重要文化財となっている。
- また、運河散策路にはガス灯63基設置されるほか、倉庫群のライトアップなどが行われている。
- 観光客は、小樽独自の歴史や文化（ホンモノの小樽）を楽しむことができる。

■ 観光客からのコアエリアに対する評価

来樽目的に「運河・歴史的建造物」と回答した割合
観光後、景観・歴史的建造物に対して「好意的」と回答した割合
(回答は「好意的」「批判的」「提言的」に分類)



コアエリアの景観・歴史的建造物が、観光客が訪れる強い動機になっており、かつ高い満足度がある

データ出典：小樽市観光客動態調査報告書(令和2年3月)

コアエリアでの取り組み例

■ 街並み整備の取組

- 小樽運河完成(1923年)から、運河周辺散策路整備(1986年)や観光物産プラザ・観光案内所整備(1990年)、小樽芸術村(似鳥美術館)創設(2016年)など、継続して街並み整備の取組に着手
- 昭和58(1983)年 小樽市歴史的建造物及び景観地区保全条例を制定し「歴史的建造物」を指定(昭和58年制定条例廃止)
- 平成04(1992)年 小樽の歴史と自然を生かしたまちづくり景観条例を制定し市内全域を対象に歴史的建造物の実態調査を実施
- 令和4(2022)年から本事業に参画し、コアエリアにおいて5件の宿泊施設・2件の観光施設を改修済
- 令和5(2023)年度は1件の宿泊施設・3件の観光施設の外観改修を実施
- 歴史・文化・港・自然など本市の強みを生かした観光振興に取り組むことが重要であり、歴史的風致維持向上計画の策定を進め、歴史的なまち並みを生かすほか、第3号ふ頭及び周辺地域の再開発を進め、「みなとオアシス」として、にぎわいのある交流空間を創出するなどまちの価値を高め「選ばれるまち」を目指す



■ 訪れた観光客の滞在価値や満足度を高める取り組み

- 明治・大正時代に建てられた石造り倉庫などがガラス、オルゴールなどを製作・販売する店舗やレストランなどの形で再利用
- 小樽運河とガス燈の風景
- 歴史的建造物のライトアップ
- 冬のイベント『小樽ゆき物語』
- 冬のイベント『小樽雪あかりの路』
- ボランティア団体による観光案内
- 運河クルーズ乗船体験
- ナイトインフォメーション(案内所)
- 小樽運河100周年プロジェクト



2. 地域計画

F. 参画事業者マップ



No.	宿泊施設名
1 ▲	CozyInn Otaru
2 ★	小樽グリーンホテル
3 ▲	小樽ふる川
4 ▲	UNWIND HOTEL
5 ▲	オーセントホテル小樽
6 ●	OTARU GARDEN STAY
7 ▲	Tug-B
8 ●	GUEST HOUSE ASAHI
9 ★	グランドパーク小樽
10 ●	おたる宏楽園
11 ★	貸別荘ウインクル
12 ▲	朝里クラッセホテル
13 ●	朝里川温泉ホテル
14 ▲	ロッヂガルミッシュ

No.	観光施設等名
1 ★	裏小樽モンパルナス
2 ▲	なると
3 ●	アニメイクス
4 ●	都通り商店街
5 ●	公会堂
6 ●	シーズ・アグリ
7 ●	北海道ワイン
8 ▲	湯の花朝里殿
9 ▲	朝里川温泉スキー場

凡例

赤：宿泊施設 **青：観光施設等**

★ ★ 令和5年度、4年度参画事業者

● ● 令和5年度参画事業者

▲ ▲ 令和4年度参画事業者

2. 地域計画

G. 具体的施策の成果を計測するためのKPI

KPI	現状	短期目標			中長期目標	測定方法
	2022年度 (R4年度)	2023年度 (R5年度)	2024年度 (R6年度)	2025年度 (R7年度)	2032年度 (R14年度)	
観光入込客数 (海水浴客以外)	386万人	730万人	740万人	750万人	760万人	年に2回、観光入込客数調査により測定
宿泊客延数	89万人	93万人	96万人	100万人	130万人	年に2回、観光入込客数調査により測定
年間観光総消費額	452億円	995億円	1,152億円	1,313億円	2,300億円	年に2回、観光入込客数調査により測定 5年に1回、観光客動態調査により測定
観光客一人当たり 平均消費額	11,695円	13,630円	15,565円	17,500円	30,263円	年に2回、観光入込客数調査により測定 5年に1回、観光客動態調査により測定

2. 地域計画

H. ロードマップ

第二次小樽市観光基本計画(平成XX年)にて、2026年までのロードマップを策定

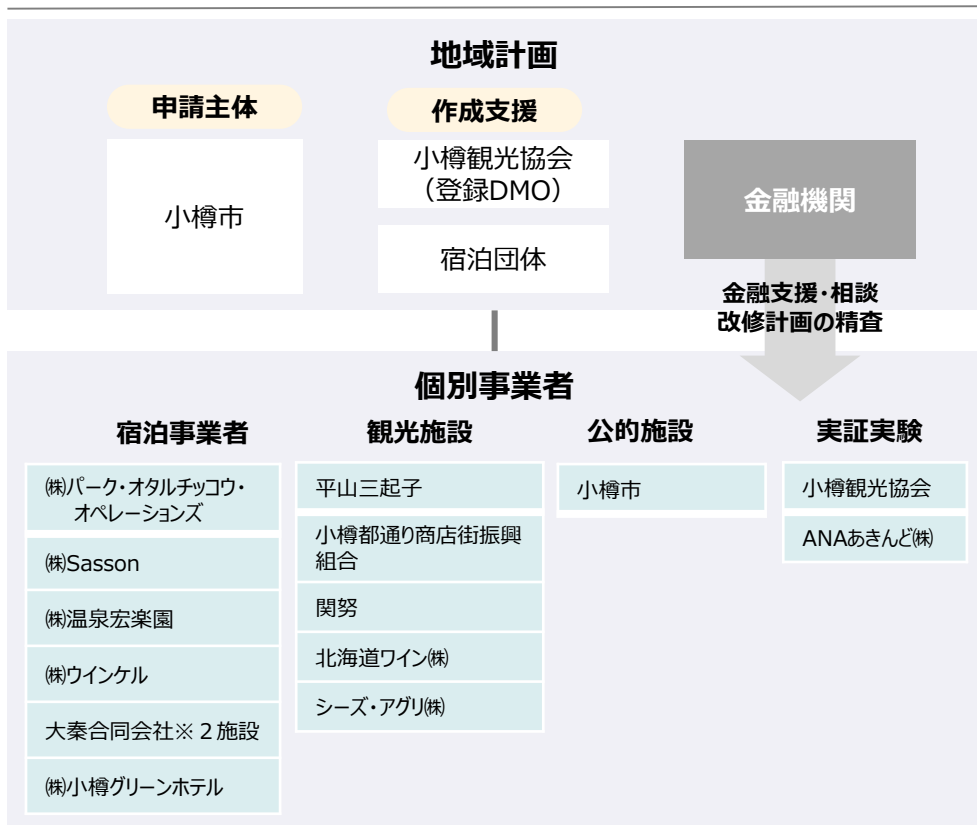
施策	2023年度 (R5年度)	2024年度 (R6年度)	2025年度 (R7年度)	2026年 (R8年度)		
計画実行に影響を与える事象	ATWS ▼		大阪・関西万博 ▼	第3次小樽観光基本計画策定開始 ▼ 第2次小樽観光基本計画終了		
1. 観光資源（掘起し・磨き上げ、国内外へ訴求）	ライトアップ（日本銀行旧小樽支店、旧三井銀行小樽支店、旧日本郵船小樽支店、旧小樽倉庫、第3倉庫、小樽運河）					
	小樽運河100周年記念イベント					
	おたる潮まつり	小樽雪あかりの路	おたる潮まつり	小樽雪あかりの路	おたる潮まつり	小樽雪あかりの路
	小樽ゆき物語		小樽ゆき物語		小樽ゆき物語	
	にしん・おタテ祭		にしん・おタテ祭		にしん・おタテ祭	
フィルムコミッション（ロケ地、聖地巡礼）、日本遺産（北前船、炭鉄港、北海道の心臓）						
2. 受入態勢（宿泊施設、トイレ等、冬季対策、おもてなし）	小樽観光大学校（おたる案内人育成/マイスター、1級、2級）					
	小樽版おもてなし認証制度 制度構築		小樽版おもてなし認証制度 試行		小樽版おもてなし認証制度 本格運用	
	観光駐車場整備（臨港線沿い）					
	第3号ふ頭及び周辺再開発（岸壁改良、大型バス駐車場、ふ頭基部整備、観光船ターミナル、観光商業施設）					
	冬季間における道路・歩道の除排雪、北海道新幹線（新小樽駅開業）、高速道路（後志道延伸）					
3. 滞在時間（短時間、観光スポットの偏り）	アドベンチャーリズム・ATWS2023		アドベンチャーリズム（着地型観光コンテンツ造成）			
	着地型観光商品の販売					
4. 情報発信（情報提供が不十分）	観光案内所（運河プラザ、浅草橋街園、小樽駅、堺町通り）、ナイトインフォメーション（サモール一番街）					
	小樽観光ガイドブック、SNS情報発信、小樽観光大使、小樽コンシェルジュ					
	バスロケーションシステム（中央バス、JRバス）					
	海外向けの情報発信（WEBサイト）					
	海外へのセールスコール、ファムトリップ、海外商談会出展（台湾、シンガポールほか）					
5. 観光調査（入込客数、観光客動態、経済波及効果）の実施、観光DX検討	観光入込調査（上期）	観光入込調査（下期）	観光入込調査（上期）	観光入込調査（下期）	観光入込調査（上期）	観光入込調査（下期）
	観光客動態調査（観光客動態、消費金額等分析）					
	観光基礎調査（経済波及効果分析）					
	観光DX検討（マーケティング等）			観光DX実施		

3. 実施体制

■ 組織体制のポイント 「官民が密接に連携した観光推進体制」

- ・登録DMOである小樽観光協会が中心となり、宿泊事業者、観光事業者、交通事業者、文化団体、大学、シンクタンク、農林水産業、商工業やボランティアガイド等の地域関係者など、多様な関係者が参画し、官民が密接に連携した観光推進体制が整っている。
- ・ホテル、旅館、簡易宿所などが加盟する「ホテル旅館組合」、「朝里川温泉組合」、「ホテルミーティング」など連携体制が整っている。
- ・インバウンド対策では、市、観光協会、商工会議所などで構成する実行委員会がターゲット等を検討し、施策を実行する体制が整っている。
- ・小樽の観光産業を支える人材の育成と市民レベルでのホスピタリティ意識の醸成を目的に「小樽観光大学校」が開設されている。

実施体制



参加者の役割

参加者	役割
小樽市	協議会の事務局、伴走支援チームとの窓口 地域の面的な再生に向けて地域計画の策定・計画の進捗管理
小樽観光協会 (登録DMO)	会員事業者の連絡調整、地域情報の発信、マーケティング調査の実施 地域の面的な再生に向けて地域計画策定および地域マネジメントを支援
宿泊団体 (ホテル旅館組合、朝里川温泉組合、ホテルミーティング)	宿泊事業者との連絡調整 地域の面的な再生に向けて地域計画策定および地域マネジメントを支援
金融機関 (融資に関わる地元金融機関)	融資関係の助言、融資計画の策定
宿泊事業者	個別事業計画の策定
観光事業者	個別事業計画の策定
公的施設管理者	個別事業計画の策定
小樽観光協会 ANAあきんど (実証実験)	個別事業計画の策定

4. 自治体の方針・本事業と連動する取組

第7次小樽市総合計画（令和2年2月） ～強みを生かした産業振興によるにぎわいのまち、観光～

内容	目的	主な取り組み
<p>1. 小樽の魅力を深める取組 観光客の滞在時間が短いことや観光スポットが固定化していること、ホスピタリティの向上などが課題となっており、本市が観光都市として更に発展するために、観光客が多彩で奥深い魅力を体感し、何度でも訪れたいと思えるまちを目指します</p> <p>小樽運河周辺などの一部の観光スポットのみならず、市内に潜在する多くの知られざる観光資源を掘り起こし、体験プログラムの充実を通じ、滞在型観光へ結び付けていくことや施設などのハード面の整備、本市の魅力の情報発信を継続して実施するなど、小樽の魅力を深める取組を進めます</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観光都市として更に発展するため、歴史的建造物の保全・活用をはじめ、本市特有の都市景観の維持に努め、観光客が豊かな自然、歴史、文化、食などの多彩で奥深い魅力を体感し、「何度でも訪れたいと思えるまち」を目指す 既存観光資源の磨き上げやナイトツーリズムなど新たな魅力の発掘により、多様化するニーズに対応する 	<ol style="list-style-type: none"> 旬の食材やイベントなど、四季の魅力発信の強化 地域特性を生かした歴史、文化、芸術の体験プログラムの構築 朝里川温泉、天狗山、北運河、祝津地域など、市内に点在する観光資源のニーズを捉えた磨き上げと発掘及び回遊性を高める取組 外国人をはじめとする観光客が快適に過ごせる環境の整備 日本遺産を活用した観光振興の推進 観光資源を組み合わせた魅力あるプログラムの開発や夜の魅力づくりなどによる滞在型観光に向けたプランの拡充 歴史や水辺を生かした港湾空間やクルーズ船を活用した誘客活動の推進
<p>2. 小樽の魅力を広げる取組 点在する資源を面として活用する広域連携は不可欠であると考えられ、豊かな自然や食など、魅力あふれる観光資源を持つ後志圏域や日本遺産認定のストーリーと連携した広域なルートづくりを目指します</p> <p>北海道新幹線の札幌延伸を意識した地域連携についての検討や新たな観光推進組織「地域DMO」の設立など、小樽の魅力を広げる取組を進めます</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市内はもとより後志圏に点在する観光資源を面として活用し小樽の魅力を広げる 	<ol style="list-style-type: none"> 戦略的な観光地づくりを行う地域DMO設立など観光推進体制の強化 後志や札幌市などとの広域的な観光圏形成の推進
<p>3. 小樽の魅力を共有する取組 外国人観光客に対して、日本におけるマナーやルールを伝えるとともに、市民に対して、観光情報やホスピタリティの在り方の周知に努め、外国人観光客の国別の習慣や文化の違い、小樽の歴史や文化などの情報を提供し、観光に対しての理解を深め、小樽に一層愛着を持ってもらえるよう、観光客と交流する機会の提供や外国人観光客との相互理解を深めるなど、小樽の魅力を共有する取組を進めます</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市民や観光客が小樽に一層愛着を持ってもらえるよう、ホスピタリティの啓発や観光ボランティア団体の活動の促進などを通じ、市民の意識改革を図る 	<ol style="list-style-type: none"> 外国人観光客の文化や習慣の違いについての情報提供など、外国人観光客と市民との相互理解の推進 市内の歴史・文化・芸術について学ぶ機会の提供など、市民の観光への意識を高める活動の推進 子ども向けホスピタリティ向上のためのメニューの検討など、観光教育の充実に向けての提案 市民が観光ガイドを行うなど、市民が観光客とふれあう機会の提供

4. 自治体の方針・本事業と連動する取組

第2期小樽市総合戦略（令和2年7月） ～小樽市への新しい人の流れをつくる～

内容	目的	主な取り組み
<p>1. 小樽の歴史・文化や地域資源を生かした観光振興 歴史的建造物や日本遺産を活用するほか、市内に潜在する多くの観光資源を掘り起こし、体験プログラムの充実を通じ、滞在型観光へ結び付けていくことや本市の魅力の情報発信を継続して実施するなど、本市の魅力を深める取組を行います 点在する資源を面として活用する広域連携は不可欠となるため、豊かな自然や食など、魅力あふれる観光資源を持つ後志圏域や日本遺産認定のストーリーと連携した広域なルートづくりを行います</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観光客が豊かな自然、歴史、文化、食などの多彩で奥深い魅力を体感し、何度でも訪れたいと思えるまちを目指す 	<ol style="list-style-type: none"> 地域特性を生かした歴史・文化、芸術の体験プログラムの構築 日本遺産を活用した観光振興の推進 観光資源を組み合わせた魅力あるプログラムの開発や夜の魅力づくりなどによる滞在型観光に向けたプランの拡充
<p>2. 観光客受け入れ態勢の整備 更なる観光客を受け入れるため、新たな観光推進組織である地域DMOの設立などによる観光推進体制を強化し、クルーズ船の誘致や歴史的建造物の保全、施設などのハード面の整備などによる本市の魅力を高める取組を行うほか、商店街など観光地以外への回遊性を高める取組を進めます 外国人観光客が安心して滞在し、本市に一層の愛着を持ってもらえるような、魅力を共有する取組を進めます</p>	<ul style="list-style-type: none"> 商店街など観光地以外にも回遊するほか、外国人観光客を含め、快適で安心して滞在できる環境を目指す 	<ol style="list-style-type: none"> 商店街や市場におけるにぎわい・ふれあいや回遊性を高める魅力づくりへの支援 キャッシュレス化や多言語化対応の推進など、多様な消費者ニーズに応える快適な買い物環境の整備 外国人をはじめとする観光客が快適に過ごせる環境の整備 小樽市歴史文化基本構想の理念を踏まえた歴史文化資源の適切な保存と活用

日本遺産を通じた地域活性化準備計画 北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽 ～「民の力」で創られ蘇った北の商都～

内容	目的	主な取り組み
<p>運河保存運動がもたらした文化資源の保存・活用の先進地から、「民の力」により進化し続け、我が国のモデルとなる歴史文化観光都市を目指します <ul style="list-style-type: none"> 四季を通じてにぎわう歴史文化観光都市へ シビックプライドの醸成とホスピタリティの向上で、住みたいまち・小樽を実現 持続可能な歴史・文化遺産の保存・活用体制の確立 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本遺産ストーリーに基づいた「歴史を活かすまち・小樽」を実現し、訪れる度に歴史文化観光都市としての小樽の成長に感動し、何度でも訪れたいまちを目指す 夜の観光、広域観光、春夏秋冬の魅力など、小樽を中心にした着地型観光の造成により、宿泊観光客が増え、四季を通じてにぎわう観光都市を目指す 	<ol style="list-style-type: none"> 歴史的建造物の保存・維持のための環境整備 昼も夜も楽しいまち小樽を実現する着地型観光の推進 日本遺産認定「北前船寄港地・船主集落」「炭鉄港」との連携 近隣自治体との連携による広域観光の推進

4. 自治体の方針・本事業と連動する取組

第二次小樽市観光基本計画（平成29年4月）ホンモノの小樽とふれあう ～ 観光客と市民がふれあい、新しい発見があり、また来たいと思える街

内容	目的	主な取り組み
<p>「観光資源の整備やPR、コンテンツ不足」、「ハード面の整備不足やおもてなし意識の不足など受入態勢」、「滞在時間の短さ」、「情報提供が十分ではない」といった課題を見据え、小樽観光の目指すべき姿を具現化するため、</p> <p>（1）小樽の魅力を深める（独自性を生かした魅力発掘で、多様化するニーズに対応する取組） （2）小樽の魅力を広げる（点在する資源を面として活用する、広域連携による取組） （3）小樽の魅力を共有する（市民の意識改革を図り、市民が積極的に参加する取組）</p> <p>といった方向性で取組を進めます</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小樽独自の歴史や文化に裏打ちされた奥深さこそがホンモノの小樽である、ということに据え、小樽が有する多彩な観光資源を掘り起こし、新たな魅力として磨き上げ、観光客に訴求する 	<p>1) 小樽の魅力を深める</p> <ol style="list-style-type: none"> 小樽の四季の魅力発信 歴史・文化・芸術の体験プログラムの構築 小樽に点在する観光資源のニーズを捉えた磨き上げと発掘 日本遺産認定に向けた活動の推進 観光客が快適に過ごせる環境整備 滞在型観光に向けたプランの拡充 <p>（2）小樽の魅力を広げる</p> <ol style="list-style-type: none"> 地域DMO構築を視野に入れたアプローチ 広域的な観光圏の形成 <p>（3）小樽の魅力を共有する</p> <ol style="list-style-type: none"> 外国人観光客との相互理解 観光への意識を高める活動の推進

第2次小樽市都市計画マスタープラン（令和2年4月）将来都市像『自然と人が紡ぐ笑顔あふれるまち 小樽』

内容	目的	主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> まちづくりの視点 「にぎわい」「安全・安心」「生活基盤」「環境・景観」「都市構造」 まちづくりの課題 「まちの活力向上」「防災性向上」「利便性向上」「公園等の利用増・地球環境の改善」「都市機能の持続性確保」 将来都市像『自然と人が紡ぐ笑顔あふれるまち 小樽』 基本目標 <ol style="list-style-type: none"> 活力と魅力あふれるまちづくり 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり 自然を大切にし、歴史・文化を育むまちづくり 持続可能で効率的なまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 何度でも訪れたいと思える魅力的なまち、働く場の確保や移住・定住の促進、活力を生み出すまちづくり 	<p>1) 活力と魅力あふれるまちづくり</p> <ol style="list-style-type: none"> 交流人口がもたらす経済効果でまちの活力を高めるため、多彩な地域資源を効果的に活用して何度でも訪れたいと思える魅力的なまちを目指します 広域交通ネットワークの形成に努めるほか、地域地区等の土地利用計画制度の活用により産業を誘導するなど、産業振興により働く場の確保を図り、移住・定住を促進します にぎわいのある中心市街地の形成やそれぞれの地域の個性を生かした拠点の形成を図るとともに、拠点間を交通ネットワークで結ぶなど、活力を生み出すまちづくりを目指します

4. 自治体の方針・本事業と連動する取組

観光地域づくり法人形成・確立計画（一般社団法人小樽観光協会）

内容	目的
<ol style="list-style-type: none"> 1. 観光地域づくり法人の組織：地域DMO 一般社団法人小樽観光協会 2. マーケティング・マネジメントする区域：北海道小樽市 3. 各種データ等の継続的な収集・分析：WEBサイトのアクセス状況、観光入込客数、宿泊客数、外国人宿泊客数、修学旅行宿泊客数、観光総消費額、満足度、来樽回数、再訪の意思、観光客の属性、来樽目的、観光ゾーン、滞在時間、土産品、感想・意見等、外国人観光入込客数 など 4. 戦略 <ol style="list-style-type: none"> ①地域における観光を取り巻く背景 ②地域の強みと弱み（SWOT分析） ③ターゲット：第1ターゲット層：国内20～40代女性 第2ターゲット層：中国、台湾、韓国、香港、タイ、マレーシア、シンガポールのFIT・リピーター層 第3ターゲット層：主に欧米・北アジアや国内ワーケーション、ケルトなどステイ型滞在者 ④観光地域づくりのコンセプト（ホンモノの小樽とふれあう～観光客と市民がふれあい、新しい発見があり、また来たいと思える街～） 5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション戦略の多様な関係者との共有（DMO形成連絡会議など）、観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築、観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション 6. KPI：旅行消費額、宿泊客延数、来訪者満足度、リピーター率 	<ul style="list-style-type: none"> • 年間800万人の観光客を誇る小樽の強みを生かした地場産業の振興を図るとともに観光消費の各産業への経済効果を広げ、新たな雇用の創出や担い手不足の解消、交流人口の増加につなげる

公益社団法人 北海道観光振興機構「地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業（DMO枠）」（5年度事業採択）

内容	目的
<p>【事業名】 「歴史的建造物の再利用・小樽能楽堂 & 公会堂におけるナイトタイムコンテンツの開発」</p> <p>【事業概要】 明治44年に皇太子行啓の際の宿所として豪商の寄付によって建てられた小樽市公会堂と、昭和29年に岡崎家から寄贈された能舞台は、伝統的和風建築であり非常に価値の高いものである。これらの歴史的資源を、この地域ならではのユニークな観光コンテンツとして再活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 能カフェ/Noh Cafe 令和5年7月30日（日）～8月15日（火） アフタヌーンカフェ 13:00～17:00 ナイトカフェ 18:00～21:00 ■ 公会堂・能楽堂ライトアップ 令和5年7月15日（土）～9月18日（月） 	<ul style="list-style-type: none"> • 夜の観光振興、ナイトタイムエコノミーの推進 • インバウンド向け観光資源の磨き上げ（ユニークベニューとして利活用）